

明治日本の道徳教科書と近代中国

—井上著道徳教科書と蔡元培『中学修身教科書』について—

龔 穎（倫理研究所特任研究員）

はじめに

中国における近代的教育システムの成立は、明治日本で編著された教科書より直接の影響を受けていたことがすでに指摘されてきた。明治期に作成された様々な教科書は、中国における伝統的なテキストの内容から体裁まで変貌させ、近代的な教科書の誕生を直接促した。19世紀の終わり頃から20世紀10年代までは、日本から伝来されてきた修身（倫理）教科書は中国における道徳教育のシステムの形成に大きな役割を果たしていた。井上哲次郎等によって編纂された道徳教育関係の教科書はその典型と言えよう。

本稿は、明治期の道徳教科書の代表作である井上哲次郎・高山林次郎共著『新編倫理教科書』と井上著『中学修身教科書』が、近代中国倫理学史上最も影響の大きかった徳育テキストである蔡元培著『中学修身教科書』及び同氏『（訂正）中学修身教科書』に与えた影響を確認し、更にその意味を考えていきたい。